

# 「主をほめよ高らかに」

(歴代誌 I 29:11)

主をほめたたえよ 高らかに

主イエスを

主をほめたたえよ とこしえに

主イエスの名を

主の愛 いつまでも変わらず

全地(ぜんち)を喜びで満たす

主をほめたたえよ 高らかに

「なんと素晴らしい」

なんと素晴らしい

あなたの愛は

くもより高く 天より高く

ほめよ イエスを

あがめよ イエスを

このいのちにまさる 主の愛は

新聖歌27番 「来る朝ごとに」

- 1 来る朝ごとに 朝日と共に 神の光を 心に受けて  
愛のみむねを 新たに悟る
- 2 来る朝ごとに罪を聖むる 恵みのつゆは天より下り  
神の幸(さち)をぞ 新たに添(そ)うる
- 3 来る朝ごとに業と言葉を 聖めわかちて神に獻げば  
ささぐる宝 いや増したまわん
- 4 来る朝ごとに とるわが努め 人を愛して己に勝たば  
神に近づく 道とこそなれ
- 5 来る朝ごとに祈れるごとく 歩み正しくまさみち進み  
きよき休みに 入(い)らしめたまえ アーメン

## 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌233番 「驚くばかりの」

- 1 おどろくばかりの 恵みなりき  
この身の汚(けが)れを 知れるわれに
- 2 恵みはわが身の 恐れを消し  
任(まか)する心を 起こさせたり
- 3 危険(きけん)をも わなをも 避(さ)け得(え)たるは  
恵みのみわざと 言(ゆ)うほかなし
- 4 御国(みくに)に着く朝 いよいよ高く  
恵みの御神(みかみ)を たたえまつらん

アーメン

新聖歌145番 「栄えに満ちたる」

- 1 栄えに満ちたる 神の都(みやこ)は  
千代経(ちよえ)し巖(いわお)の 礎(いしずえ)かたく  
救いの石垣 高く囲めば  
み民の安きを 誰(たれ)かは乱(みだ)さん
- 2 尽きせぬ愛より 命の泉 豊かに湧き出て  
汲(く)めど尽きねば み国の世つぎは 渴くときなく  
あふるる恵みに 絶えずうるおう
- 3 み恵み受けつつ 生きるみ民は はかなき楽しみ  
むなしき富に ほこれるよびとの嘲(あざ)みにあえど  
こよなき喜び 露(つゆ)も変わらじ アーメン

## 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあげさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御霊(みたま)を

アーメン